

Dual port シリアルインターフェース拡張カード (PY-UPS02)

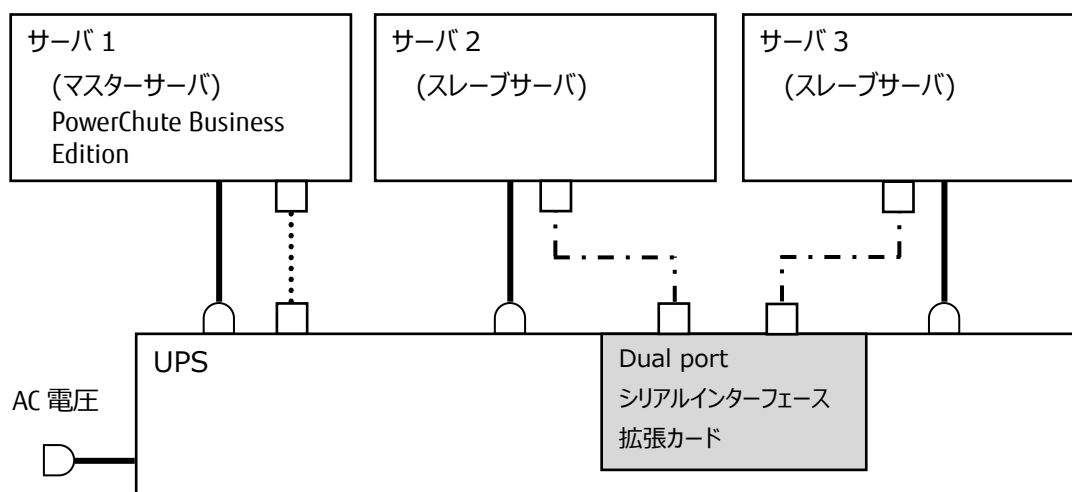
1. 概要

本製品は、高性能無停電電源装置の背面パネルにある拡張用スロット部に装着して使用する Smart-UPS 用のシリアルインターフェース拡張用オプションカードです。

2. 特長

高性能無停電電源装置の背面パネルにある拡張用スロット (Smart スロット) に本ボードを装着することにより、UPS の背面にシリアルインタフェースポートを 2 つ追加することができ、1 台の UPS で最大 3 台までのサーバと接続することができます。

- 3 台のサーバを 1 台の UPS に接続した構成の例



<凡例>

- : USB/シリアルケーブル (PowerChute Business Edition 添付品)
※ RHEL 5 系の旧版 Linux の場合は、シリアル接続のみとなります。
- - - - - : Dual port シリアルインターフェース拡張カード(PY-UPS02) 添付シリアルケーブル
- : 電力出力線
- : USB/シリアルポート

図 1. シリアル拡張カード接続構成図

3. 外観

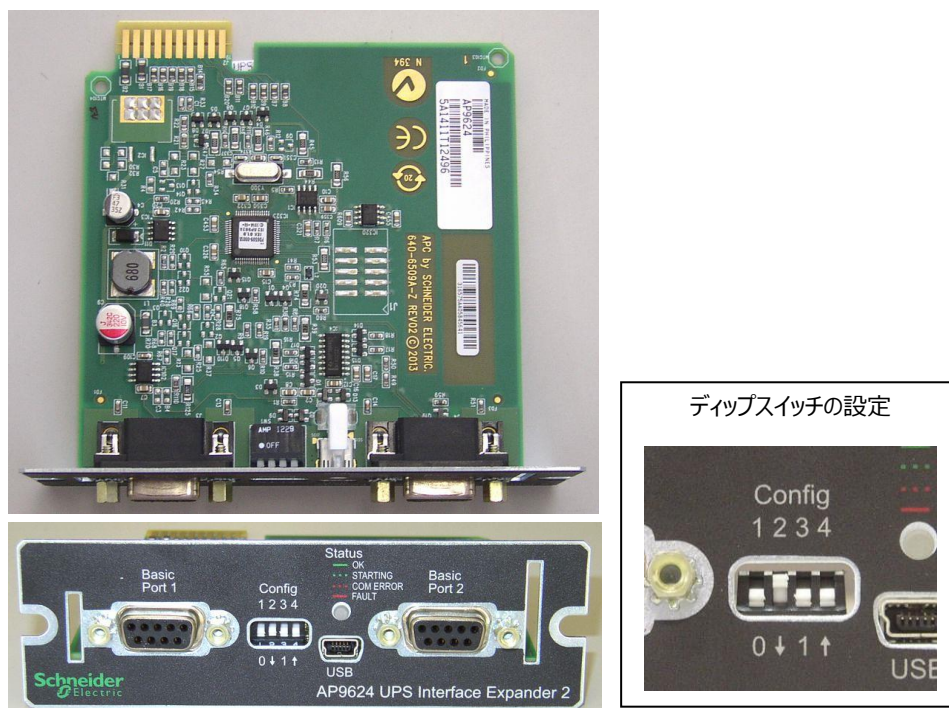


図 2. シリアル拡張カード (外観図/ディップスイッチ設定拡大図)

4. 仕様

メーカー品名	Interface Expander
メーカー型名	AP9624
寸法 (高さ×幅×奥行)	102 × 102 × 38 mm
質量	89g
動作保証温度	+10 ~ +35 °C
保管温度	0 ~ +35 °C
動作保証湿度	0 ~ 95%、結露なきこと
保管湿度	同上
適合する EMC 規格	VCCI クラス A、FCC クラス A

5. 接続対象 UPS

PY-UPAT50^(*1)、PY-UPAT502、PY-UPAT503、PY-UPAT75^(*1)、PY-UPAT752、PY-UPAT15^(*1)、PY-UPAT152、PY-UPAR12^(*1)、PY-UPAR122、PY-UPAR15^(*1)、PY-UPAR152、PY-UPAC3K^(*1)、PY-UPAC3K2
 (*1) 保守終息済

6. 添付品

保証書 [1 部]

シリアルケーブル(ケーブル長 : 2m) [2 本]

7. 留意事項

- ① 本製品を UPS に装着する時は、必ず UPS の電源を完全に OFF してください。
- ② UPS 本体に標準で装備されている USB またはシリアルインタフェースポートと接続された、マスターサーバのみがスケジュール運転等の制御が可能です。

従って、マスターサーバからの制御 (Power ON/OFF やスケジュール運転等) に、本製品により UPS と接続されたスレーブサーバが連動して動作します。マスターサーバで設定されたシャットダウンに関する動作に、他のスレーブサーバが追従して動作し、停電時及びスケジュール運転によるシャットダウン時にはマスターサーバと同様にスレーブサーバ側でも運用中のサービスソフトと OS のシャットダウンが実行されます。

(以図、「図 3 : シャットダウンの時間関係」を参照)



※ 電源障害発生後のシャットダウン開始までの時間が2分以上に設定されている場合。2分未満に設定されている場合、設定時間に従い OS のシャットダウンが開始されます。

図 3. シャットダウンの時間関係

- ③ 本製品を使用した場合、シャットダウン開始までのシーケンスは通常の場合と異なり、本製品により制御されスレーブサーバのシャットダウン開始時間が2分（固定）となります。

下表を参照し、シャットダウンの設定を正しく行ってください。

尚、各サーバの設定項目の詳細については、PowerChute Business Edition のユーザズガイド、またはヘルプファイルをご確認ください。

項(*2)	UPS 本体 + 本製品設定項目	設定値
T1	タイマー時間	2 分（固定）
T2	Power Off Delay	180 秒
項(*2)	マスターサーバ設定項目	設定例
T3	電源障害設定	ランタイム制限で：120 秒
T4	コマンドファイルを実行するのに必要な時間または、OS 待機時間	60 秒
T5	OS がシャットダウンする時間または OS 期間	180 秒
項(*2)	スレーブサーバ設定項目	設定例
T6	OS 待機時間	60 秒
T7	OS 期間	60 秒

(*2) 項(T1,T2 等)については、前述の「図 3. シャットダウンの時間関係」も合わせて参照ください。

- ④ 本製品を使用する場合、マスターサーバにはシャットダウン完了までに最も時間の掛かるサーバを接続し、そのマスターサーバのシャットダウンに要する時間と UPS に接続された全てのサーバおよび機器の消費電力の合計とを考慮してバッテリー保持時間内にサーバのシャットダウンができるようにアプリケーションソフトの設定を行ってください。

計算例) 1 台の UPS に本製品を実装して、以下のような 3 台のサーバを接続する場合

サーバ A(*3) : シャットダウン完了時間 5 分、消費電力 300W
 サーバ B : シャットダウン完了時間 4 分、消費電力 250W
 サーバ C : シャットダウン完了時間 3 分、消費電力 250W

(*3) マスターサーバにはサーバ A を適用する。(シャットダウン時間最長の為)

- ⑤ 本製品を使用する場合は、マスターサーバとスレーブサーバの全てにアプリケーションソフト PowerChute Business Edition をインストールする必要があります。

- ⑥ 本製品を使用した場合のマスターサーバ、スレーブサーバでサポートされる UPS 管理ソフトウェアの機能は下表を参照ください。

項	PCBE 機能	マスターサーバ	スレーブサーバ
1	電源障害時の自動シャットダウン	○	○
2	スケジュールシャットダウン	○ 設定はマスターから	○
3	一括管理/設定	○	×
4	モニタリング	○	×
5	通知機能(E-mail、SNMP)	○	×
6	レポート	○	×
7	ロギング	○	×
8	リスクアセスメント	○	×

- ⑦ 本製品とスレーブサーバとの接続には、必ず本製品に添付の専用ケーブルを使用してください。
また、本製品の前面パネルにあるディップスイッチの設定は、出荷時のデフォルト状態（以下、図 4）を変更しないでください。

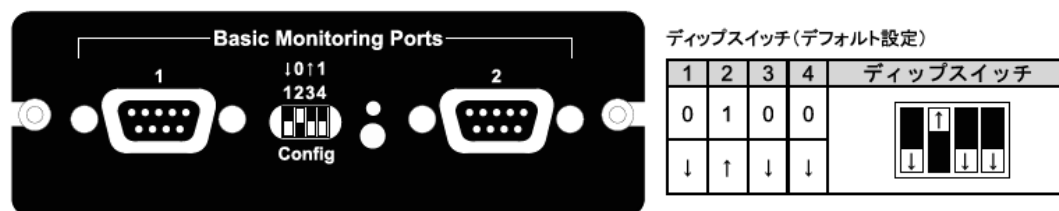


図 4. ディップスイッチのデフォルト状態

- ⑧ マスターサーバと UPS 間で通信切断が発生すると本製品に接続されたスレーブ側サーバがシャットダウンされます。

8. 規格の対応状況

安全規格	対象外（接続対象 UPS に搭載した状態で UL1778 を取得）
電気用品安全法	対象外
電波規格	VCCI クラス A
RoHS 指令	対応済み
J-MOSS（日本版 RoHS）	対象外
グリーン購入法	対象外

※本表の規格対応状況は、お客様へ提示可能です。